

第47回 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会三重県予選大会 兼 第34回三重県スポーツ少年団軟式野球交流大会 開 催 要 項

1. 趣 旨 県内スポーツ少年団による日頃の軟式野球活動の成果を交歓し、少年達の友愛・義務・責任感の精神を養い、少年団相互の県内交流を促進するとともに少年団活動の充実と活動の活発化を図る。
2. 主 催 (公財) 三重県スポーツ協会三重県スポーツ少年団、三重県軟式野球連盟
3. 主 管 三重県軟式野球連盟四日市・桑名支部
4. 後援(予定) 三重県、四日市市、四日市市教育委員会、桑名市教育委員会
中日新聞社
5. 協 賛 ナガセケンコー株式会社、株式会社共同写真企画
6. 期 日 2025年 5月3日(土)・5月4日(日) 予備 5月11日(日)
7. 会 場 A会場 四日市市霞ヶ浦第2野球場 【四日市市】
B会場 四日市市松原公園野球場 【四日市市】
C会場 ノザキ製菓アイリスパーク球場 【桑名市】
D会場 九華公園野球場 【桑名市】
8. 参加資格 (1) 2025年度に三重県スポーツ少年団及び三重県軟式野球連盟の両団体に登録されたもの。
(2) 指導者等
【チーム代表者及び監督】・・・必置
2025年度にスポーツ少年団に指導者として登録している者でスポーツ少年団の理念を学んだ者。(別紙参照)
所属市町スポーツ少年団の本部長が推薦する者。
【コーチ】
2025年度にスポーツ少年団に「指導者(※)」もしくは「役員・スタッフ」として登録している者。 ※スポーツ少年団の理念の有無は問わない。
【マネージャー・スコアラー】
スポーツ少年団に登録していることが望ましい。
(3) 参加者は小学生の団員(1年生から可)とし、所属単位団でチームを編成するものとし、1チーム20名以内とする。
(4) 参加者はスポーツ安全保険等に加入していること。
(5) 参加者は県内11支部の代表チームであることとする。
(6) 東海大会出場時は、原則として県大会時の登録で出場すること。
9. 適用規則 2025年度日本野球規則、全軟連学童野球規則、大会特別規則
10. 試合回数 全試合6回戦又は試合開始以降1時間30分を経過後の均等回完了をもって
& 内容 ゲームは終了する。
但し、5回以降7点差が生じた場合は、点差コールドゲームを採用する。
6回又は試合開始以降1時間30分を経過後同点の場合は、引き続きタイブレイク方式を最長2回行い、決着がつかないときは抽選で勝敗を決定する。
決勝戦については、勝敗が決するまでタイブレイク方式を行う。
※【大会特別規則第3項a)～d)を参照】
11. 試合球 全日本軟式野球連盟公認球 J号(ケンコー・ボール)を使用する。

1 2. 開会式 会 場 四日市市霞ヶ浦第2野球場
 日 時 5月3日(土・祝)
 集合時間 午前7時30分
 開始時間 午前8時00分
 選手宣誓 組合せ番号1番の主将

1 3. 表 彰 優 勝 軟野連 : 賞状、優勝旗、優勝メダル
 知事賞 : 賞状、優勝杯
 県民賞 : 賞状
 準優勝 軟野連 : 賞状、準優勝杯、準優勝メダル
 知事賞 : 賞状
 県民賞 : 賞状

1 4. 傷害補償 参加者はスポーツ安全保険等に加入していることとなっているため、競技中の傷害について応急処置は行いが、後の補償はしない。

1 5. 参加料 1チームあたり、10,000円
 市町スポーツ少年団は参加料をとりまとめ、下記口座へ納入すること。
 但し、一旦納入された参加料は返却しない。

| | | |
|-------|------|-------------------|
| 【振込先】 | 銀行名 | : 百五銀行平田町駅前支店 |
| | 口座情報 | : 普通預金 609784 |
| | 口座名義 | : 公益財団法人三重県スポーツ協会 |

- 1 6. その他
- (1) 競技の開始決定は、試合当日天候不良の場合、中止する場合と時間を遅らせて開始する場合があるので、独自で判断しないこと。
 - (2) 開会式には少年団旗(日本スポーツ少年団指定単位団旗)が必要となるため出場団は手配のこと。
 - (3) 大会組合せについては、三重県スポーツ協会HPに掲載のため、本会より参加チームへの通知は行わない。よって各チームで確認のこと。
 - (4) 優勝チームを、三重県で行う第47回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会【8月8日(金)～11日(月・祝)】に派遣する。
 - (5) 準優勝チームを、愛知県で行われる第37回東海ブロックスポーツ少年団軟式野球交流大会【6月7日(土)】に派遣する。

1 7. 大会当日 三重県軟式野球連盟 四日市支部・桑名支部

連絡先

- ①水野理事長 携帯: 090-8737-7282 四日市支部
- ②星野事務局長 携帯: 090-1624-1733 四日市支部
- ③佐野理事長 携帯: 090-1620-0551 桑名支部
- ④伊藤事務局長 携帯: 090-8861-5413 桑名支部

1 8. 派遣審判

| | 伊 賀 支 部 | | 亀 山 支 部 | |
|------|---------|------|---------|------|
| 氏 名 | 森本秀哉 | 広瀬尚久 | 駒田成哉 | 中西武史 |
| 担当会場 | | | | |

1 9. 2024年度成績 優 勝 松阪ファイターズスポーツ少年団(松阪支部)
 準優勝 紀宝トレジャーズスポーツ少年団(熊野支部)

スポーツ少年団軟式野球交流大会

参加申込み書の 作成から提出までの流れ

1. 参加申込書の作成について

① 申込書様式の入手と 必要事項の記載

参加申込チームは、参加申込書を三重県スポーツ協会（スポーツ少年団）ホームページ（<http://www.mie-sports.or.jp>）より、申込様式をダウンロード または、三重県軟式野球連盟より配布された様式に、必要項目を記載作成を行う。
記載作成は、電子化によるデータ作成を行う。

必要項目の入力

チームの「名称(スポ少登録単位団名)、所属市町名、団登録番号」、「チーム代表者、監督、コーチ、マネージャー、スコアラー」、の氏名、年齢、現住所、電話番号、JSP0公認指導者登録番号又は令和6年度スタートコーチ（ジュニア・ユース）養成講習会受講者番号と登録選手名簿の記載作成

注) 参加申込書を データ作成メール送信提出システムにて行うので
所属市町スポーツ少年団 及び 三重県スポーツ少年団本部の押印は省略した
参加申込書を採用している。

② チーム代表者と監督の登録について（必置）

チーム代表者と監督は、スポーツ少年団の理念を学んだ者とする。
スポーツ少年団の理念を学んだ者は、以下の者のことを示す。
・「令和元(2019)年度スポーツ少年団認定育成員・認定員登録者」且つ、スポーツコーチングリーダー資格等JSP0公認指導者資格保有者
・スタートコーチ（ジュニア・ユース）資格保有者
・令和6年度スタートコーチ（ジュニア・ユース）養成講習会修了者

○コーチについては、スポーツ少年団に指導者登録または役員・スタッフ登録をしている者とする。（スポーツ少年団の理念の有無は問わない）
○マネージャー、スコアラーに関しては、スポーツ少年団に登録をしていることが望ましい。

③ 団員及び指導者のスポーツ少年団 w e b 登録について

出場チームは、2025年度スポーツ少年団 w e b 登録システムに申込者（指導者・団員）の名前を確認し、大会1週間前までに所属市町スポーツ少年団事務局へ登録手続きを行うこと。

2. 参加申込書の提出

提出は、メール 及び データ媒体にて 下記の2か所に 送信提出すること。

提出締切日は、4月 8日（火） 厳守

提出先 - 1 三重県スポーツ協会 三重県スポーツ少年団本部 担当 寺井
メールアドレス t-terai@mie-sports.or.jp

提出先 - 2 所属市町スポーツ少年団事務局
メールアドレス (アドレスは、送付先に確認をすること)

3. 参加料の納入

参加料は、参加申込書を2か所メール送信提出のあと、速やかに所属市町スポーツ少年団事務局に持参するか、所属市町スポーツ少年団事務局の指定金融機関口座に下記の金額を振込納入をすること。

参加料 1チーム あたり 10,000 円

1. 本大会は控え審判制をとる。
 - a) カウントの明らかな間違いについては、控え審判員が訂正しなければならない。
 - b) 当該審判員が裁定に苦しむときは、控え審判員と協議することができる。
 - c) 規則適用の明らかな間違いについては、控え審判員が当該審判員と協議のうえ解決することができる。この解決は最終的なものである。
2. 暗黒、降雨その他の事情で試合を中止するなど大会の運営に関する事柄については、当該審判員、控え審判員及び大会本部と協議して決定する。
3. 試合回数と延長戦について。
 - a) 試合回数は全試合6回戦とするが、暗黒、降雨などで6回までイニングが進まなくとも5回又は試合開始以降1時間30分を終了すればゲームは成立する。試合開始以降1時間30分を経過後の均等回完了をもってゲームは終了する。但し、点差によるコールドゲームを採用し、5回以降7点差が生じたときは、点差コールドゲームを採用する。決勝戦も同じ。
 - b) 6回又は試合開始以降1時間30分を経過後同点の場合は、引き続きタイブレイク方式を最長2回行い、決着がつかないときは抽選で勝敗を決定する。但し、決勝戦については、勝敗が決するまでタイブレイク方式を行う。
 - c) タイブレイク方式は、継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者とし、その前の打者を二塁走者とする。すなわち、無死一・二塁の状態にして1回行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返すこととする。
 - d) 抽選方法は、審判員及び試合終了時に出場していた両チームのメンバーがポジション順に整列し、○印、×印各9枚、計18枚の封筒を球審が先攻チームより一枚づつ交互に選ばせる。二人の審判員が両チームの監督立ち会いのもとに開封し、○印の多い方を抽選勝ちとする。
4. 監督は、グラウンドに出て、指示、抗議ができる（抗議は、監督か当該プレーヤー）
5. 監督、コーチのベースコーチは認められない。交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップなどのほか、ベースコーチも許される。
6. 装具の着用について
 - a) 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色・同形・同意匠のユニフォーム、帽子でなければならない。
 - b) アンダーシャツ、ストッキングは、同色でなければならない。
 - c) 背番号の規格は、最小限15.2cm以上、最大限長さ21cm、巾16cm、太さ4cm以内とする。
 - d) 金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。背番号は、監督30番、コーチは29番、28番とする。
7. 選手の背番号は、0番～99番を使用すること。主将は10番をつけること。
8. チーム全員ユニフォームの左袖に、三重（県名）を必ず入れること。
9. 金属バット、ハイコンバットは、J S B Bマークの付いた公認のものに限る。上記のバットの色の制限はないが、単色以外の場合は連盟の承認を必要とする。
10. 試合中にベンチに入れる人員
 - a) 登録されユニフォームを着用した監督1名、コーチ2名以内とする。（成人とする）
 - b) チーム責任者（成人とする）1名（ユニフォームの着用はできない）、マネージャー1名、スコアラー1名（以上男女は問わない）
 - c) 登録されユニフォームを着用した選手10名以上20名以内とする。
 - d) グラウンド内では、練習中でもユニフォームを着用していないものは、グラウンドにでることはできない。
11. 投手は、変化球を投げることを禁止する。変化球を投げた場合は次のペナルティを課すこととする。
 - a) 変化球に対して“ボール”を宣告し、その投手に注意をする。注意したにもかかわらず同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は他の守備位置につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することは出来ない。
 - b) 変化球が投げられた時にプレイが続けられた場合は、打者が一塁でアウトになるか、走者が次塁に達するまでにアウトになった場合は、プレイを無効とし、打者に“ボール”が加算される。この場合攻撃側の監督の申し出があれば、プレイはそのまま有効とする。但し、打者が安打、失策、四死球、その他で一塁で生き、走者が進塁するか、占有塁にとどまっていた場合は、ペナルティーはなく、プレイはそのまま続けられる。
 - c) 学童の投球数制限について
 - 1) 投手の投球数制限については、健康維持を考慮し、一日70球以内とする。
 - 2) 学童4年生以下にあたっては、一日60球以内とする。
 - 3) 投手が投球数（70球）に達したならば、その時の打者が打撃を完了完了するまで攻守交代まで投球できる。。
 - 4) タイブレイク方式となった場合、1日70球制限以内で投球できる。
 - 5) 投手が他の守備位置についたなら、70球以内であれば再び投手に戻れる。
 - 6) 投球数の管理は大会本部で行う。
12. チームが球場に到着したら、必ず本部に到着した旨報告し、打順表を受け取ること。
13. イニングの交代時、“ボール”を投手板上におくこと。ころがさないこと。
14. ホームベースは一般用を適用する。なお、キャンパスバッグも一般用を適用することもあ
15. 指名打者制ルールを使用することが出来る。（全軟連適用）指名打者（投手の打順の時に代わって打つ打者）（規則：5.11項）指名打者を使うときは、試合開始前に提出の打順表に記載すること。ただし、二刀流選手（大谷ルール）は採用しない。

競技運営に関する注意事項 学童の部

(2025年度版)

1. 会議で説明を受けた事項及び決められたことは選手全員に徹底させること。
2. ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。
3. シートノックは5分間とする。 ノッカーは監督又はコーチとし、必ずユニフォーム及びスパイクを着用すること。なお、捕手はプロテクター、レガーズ、捕手用ヘルメット、ファウルカップを必ず着用すること。又、大会運営の関係でシートノックを行わず試合を開始することもある。 この場合、攻守決定の際通告する。
4. 球場内でのフリーバッティングは認めない。
5. その日の第一試合は、予告時刻の40分前に監督と主将が本部に打順表を提出する。第二試合以降は、前の試合の3回終了時に、監督と主将が打順表を提出する。打順表は、本部が用意する。(5部提出)
6. 試合開始時刻になっても球場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
7. 試合当日の登録変更、追加、及び背番号の変更などは一切認めない。
8. ベンチ内での電子機器類(携帯電話)・携帯マイクの使用を禁止する。メガホンは1個に限る。
9. 学童大会では、打者、次打者、ベースコーチ、走者とも両側にイヤラップのついたヘルメットを必ず着用すること。又、捕手はマスク、ヘルメット、プロテクター、レガーズ(両足)、ファウルカップを必ず着用すること。これらはいずれもSGマークの付いた連盟公認の物を使用すること。
10. 試合開始と試合終了の際、両チームの主将は握手をすること。
11. 試合のスピード化の為、次のことを必ず実行すること。
 - a) 攻守交代は必ず駆け足で行うこと。但し、投手に限り内野地域内は歩いて差し支えない。
 - b) 投手は、捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見ることを厳重に実施すること。
 - c) 2回以降の投手の準備投球は、4球以内とする。状況によって考慮する。
 - d) 審判員に対する判定(ストライク、ボール、アウト、セーフ、フェア、ファウルなど)のアピールは厳禁する。
 - e) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
 - f) スパイクの紐の締め直し、ユニフォームの土を払うためのタイムは認めない。
 - g) タイムは1分以内とする。但し、審判員が認めた場合、この限りでない。
 - h) 捕手を含む内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数を3回以内とする。但し、監督と共に行った場合は、野手、監督共に1回と数える。なお、延長戦(タイブレイク含む)となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
 - i) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は、3回以内とする。なお、延長戦(タイブレイク含む)は、1イニングに1回行くことが出来る。
 - j) 攻撃側のタイムの制限。攻撃側のタイムは、1試合3回以内とする。なお、延長戦(タイブレイク含む)は、1イニングに1回行くことが出来る。
12. 試合中(インプレイ中)に、ファウル地域であっても2組(4名)以内の投球練習は認めるが、ランニングしたり、予備運動等をすることは認めない。但し、イニングの間は、これを認める。
13. 試合のスピード化を図るため、走者が負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え代走(打撃の前位の者、投手及び捕手を除く)を認め、試合を続行させる。(コーティシーランナー)
14. 試合中の禁止事項
 - a) バットリング、鉄パイプなどをグラウンド内に持ち込むことを禁止する。
 - b) 投手が手首にホータイを巻く必要のある時は、球審の承認が必要である。
 - c) 足を上げてのスライディングを禁ずる。このスライディングが妨害と認めた場合は、守備妨害でアウトとする。
 - d) 空タグを禁ずる。この空タグによって妨害になったと認めた場合は、走塁妨害を適用する。
 - e) プレーヤーが塁上に腰をおろすことを禁止する。
 - f) 金属製スパイクの使用を禁止する。
 - g) 相手チームや審判員に対して、聞き苦しい野次は厳禁する。又、スタンドでの自チーム側の応援の野次もチームの責任とする。この行為を犯した場合は、審判員、控え審判員、本部役員が厳重注意する。再度注意しても聞かない場合は退場させる。
15. マナーについて
 - a) 投手が ヒット・バイ・ピッチ(死球)を投げた場合、打者に対して帽子を取り謝罪の態度をすること。
 - b) 投手が投球動作を起こすと同時に歓声を上げたり、応援団が鐘、太鼓をたたいて投手の動揺を誘うような非スポーツマン的な行為は慎むこと。
16. 記念写真撮影について
チームの集合写真を「榊共同写真企画」が撮影します。全チーム開会式開始前に撮影を終えて下さい。写真購入希望チームは、後日同社が見本を送付してきますので、それを見た上で申し込んで下さい。
各チームの保護者、又は関係者が、閉会式の際にグラウンド内に入っの記念撮影は禁止いたします。
「榊共同写真企画」は全日本軟式野球連盟公認の会社ですので、各支部はご協力下さいませようお願いいたします。
17. 開会式の行進について(閉会式同様)
開会式は、大会の大切な意義あるセレモニーであり、手を大きく振り、足を高く上げて元気よく行進すること。行進の練習もしておくこと。
18. チームの応援団は、連盟のアマチュア規定に触れることに無きよう注意すること。また、自分達のゴミは自分達で処理をして、スタンドを汚さないよう注意すること。